

平成27年度 道の駅と大学との連携 成果発表交流会

■日 時 : 平成28年3月14日(月) 15:00~18:00

■場 所 : さいたま新都心合同庁舎2号館5A会議室

■主 催 : 国土交通省 関東地方整備局

■参加者 : 109名

■プログラム:

1. 開会・関東地方整備局 石川局長挨拶

2. 発表

①茨城大学(道の駅「常陸大宮」との連携)

②いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム
(道の駅「ひたちおおた」との連携)

③文星芸術大学(道の駅「はが」との連携)

④宇都宮大学(道の駅「にしかた」との連携)

⑤跡見学園女子大学(道の駅「もてぎ」との連携)

⑥城西国際大学
(道の駅「鴨川オーシャンパーク」との連携)

⑦帝京大学(道の駅「甘楽」との連携)

⑧群馬県立女子大学(道の駅「玉村宿」との連携)

⑨立正大学(道の駅「めぬま」との連携)

⑩淑徳大学(道の駅「果樹公園あしがくぼ」との連携)

⑪立教大学(道の駅「いちごの里よしみ」との連携)

⑫松本大学(道の駅「中条」との連携)

3. 講評

4. 記念撮影・閉会

■概要:

国土交通省では、今年度より全国各地で、道の駅と大学との連携を実施しています。

この取り組みは、地域の魅力の集まる道の駅と大学生の交流により新たな価値の創造を図り、観光地域づくりなどを担う将来の人材育成や地方創生にも寄与が期待されているところです。

関東地方整備局管内においても14箇所で開催した取り組みが進んでいます。今回、それぞれの取り組み状況や成果を発表し、学生同士の交流を深めることを目的として、成果発表交流会を開催しました。



【石川局長挨拶／成果発表会会場の様子】



平成27年度 道の駅と大学との連携 成果発表交流会

①茨城大学と道の駅「常陸大宮」との連携

【発表課題】

アリーナ社会論を援用した連携についての報告

【発表者】

茨城大学人文学部社会学科
3年 鬼澤 希、鈴木 優太、前田 彬貴

【発表概要】

- ・市内で生産されたロマネスコ等の洋野菜が、市内では消費されていないことを知り、是非多くの人にしてもらいたい。
- ・町をアリーナ(劇場)にみたて、様々な役者(地域資源)が一つの目標に向かって進むまちづくりを目指し、見つけた地域資源を活用した企画を提案していきたい。

【道の駅常陸大宮コメント】

- ・道の駅常陸大宮は今年25日にオープンします。
- ・若い人の視点、地域視点を生かした道の駅づくりをしていきたい。



成果発表の様子



指導教官並びに道の駅からのコメント

②いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムと道の駅「ひたちおおた」との連携

【発表課題】

全国初 大学コンソーシアムによる連携についての報告

【発表者】

茨城大学人文学部社会学科
2年 坂中 琢人、永井 雄馬、星 晶

【発表概要】

- ・コンソーシアムがグルメやお土産を開発し、SNSを通じて情報共有し、パッケージ、マーケティングなどを実施します。
- ・商品開発の体験を通じて学生ベンチャーにまでつなげていきたい。また、成果を地域全体に還元していきたい。

【道の駅ひたちおおたコメント】

- ・4つの違う大学かつ違う学部の学生に協力していただけることに感謝しています。
- ・相互協力してwin-winの関係を築いていきたい。



成果発表の様子



指導教官並びに道の駅からのコメント

平成27年度 道の駅と大学との連携 成果発表交流会

③文星芸術大学と道の駅「はが」との連携

【発表課題】

道の駅「はが」と 文星芸術大学との 連携成果発表

【発表者】

文星芸術大学美術学部デザイン専攻2年
柴田 真由、梁島 みすず

【発表概要】

- ・オリジナルワインのラベル作成や花火大会ポスター作成を通じて、デザインが商品やイベントの良さを多くの人に伝える手段であることを改めて感じることができた。
- ・自分の制作したものが、実際に売り場に並ぶといった、学生時代に貴重な経験ができた。

【道の駅はがコメント】

- ・話題性をつくるのが非常に重要であることが、今回の花火大会のポスターやラベルづくりを通じてわかりました。



成果発表の様子



指導教官並びに道の駅からのコメント

④宇都宮大学と道の駅「にしかた」との連携

【発表課題】

地元農産物を活用した 道の駅「にしかた」オリジナル商品の開発

【発表者】

宇都宮大学教育学部家政教育専攻4年
結城 佳奈美

【発表概要】

- ・真上地区での梅の収穫体験を通じて、農産物・人・環境の魅力を再確認できた。
- ・講義では学ばない販売に関する知識がない中で、POPやパッケージデザインなどは、何度も道の駅に足を運んで、お互いに納得できるものを作成できた。

【道の駅にしかたコメント】

- ・加工による梅のロスがなくなり、良い結果となりました。
- ・「西方にらゼエノベーゼパスタ」は定番メニューとして採用します。



成果発表の様子



指導教官並びに道の駅からのコメント

平成27年度 道の駅と大学との連携 成果発表交流会

⑤跡見学園女子大学と道の駅「もてぎ」との連携

【発表課題】

道の駅もてぎインターンシップ成果報告

【発表者】

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部観光マネジメント学科
3年 平川 莉子、村上 史香
2年 西東 尚佳

【発表概要】

- ・現場を体験することで、座学で学んだことを実践する難しさと女子大生目線やよそ者目線の影響力を学ぶことが出来た。
- ・10回以上現地にいき、訪問先の人とのコミュニケーションを通じて発見した驚きを、訪れる人に伝えることが使命だと感じた。

【道の駅もてぎコメント】

・さけの遡上は地元では当たり前の光景であったが、ツアーに取り込んだ結果評判がよく、今回のように大学との連携によるよそ者目線での商品開発は重要であると感じた。



成果発表の様子



指導教官並びに道の駅からのコメント

⑥城西国際大学と道の駅「鴨川オーシャンパーク」との連携

【発表課題】

道の駅「鴨川オーシャンパーク」との連携事業報告

【発表者】

城西国際大学観光学部ウェルネスツーリズム学科
2年 小熊 祥太、鈴木 雄也

【発表概要】

- ・何度も現地で意見を聞き取り、たくさんの改良意見を提案し、それらを参考いただけたことがよかった。
- ・房総の食材を多く取り入れた新メニューの開発では、元大手ホテル総料理長の指導による調理実習等を通して、房総の特産品や商品販売におけるビジネスの理解を深められた。

【道の駅鴨川オーシャンパークコメント】

・学生目線から見た鴨川の新たな特産物を開発できた点がよかった。



成果発表の様子



指導教官並びに道の駅からのコメント

平成27年度 道の駅と大学との連携 成果発表交流会

⑦帝京大学と道の駅「甘楽」との連携

【発表課題】

道の駅「甘楽」との連携
～歩きたくなる城下町小幡の実現に向けて～

【発表者】

帝京大学経済学部・観光経営学科3年
青木 彩

【発表概要】

- ・昨日実施したまち歩きビンゴが地元の子供たちに喜ばれ非常に楽しかった。
- ・アンケートに始まり、商品や店内のレイアウトの提案など、企画力、実践力の向上を図ることができ、この体験を駅伝の襷のように後輩たちに伝えていきたい。

【道の駅甘楽コメント】

・街歩きビンゴによって多くの子供達に参加してもらえてよかった。ぜひとも後輩学生への襷リレーをお願いしたい。



成果発表の様子



指導教官並びに道の駅からのコメント

⑧群馬県立女子大学と道の駅「玉村宿」との連携

【発表課題】

道の駅「玉村宿」女子大プロジェクト

【発表者】

群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部
国際ビジネス課程2年
加藤 光、木内 菜々、河野 莉歩

【発表概要】

- ・企画から実行までの一連の流れを体験できたことで自信につながった。
- ・大学と道の駅のある玉村町への愛着が強まり、地域の人々と触れ合えることができた。将来親になった時に親子でこの道の駅を訪れるようになりたい。

【道の駅玉村宿コメント】

・群馬県の一番新しい道の駅であり、これからも若い視点から引き続き連携をお願いしたい。



成果発表の様子



指導教官並びに道の駅からのコメント

平成27年度 道の駅と大学との連携 成果発表交流会

⑨立正大学と道の駅「めぬま」との連携

【発表課題】

道の駅「めぬま」と国宝「妻沼聖天山」の連携促進

【発表者】

立正大学地球環境科学部地理学科
3年 長島 里実、稲葉 裕哉
2年 飯山 和也

【発表概要】

・足で稼いだ情報が、マップを通じて道の駅というフィールドで情報発信できる機会を与えていただいたことが大きな経験となった。

【道の駅めぬまコメント】

・地元の人も知らない町の名所や名跡を詳しく調べていただき助かりました。



成果発表の様子



指導教官並びに道の駅からのコメント

⑩淑徳大学と道の駅「果樹公園あしがくぼ」との連携

【発表課題】

～道の駅「果樹公園あしがくぼ」を拠点とした
更なる地域活性化～

【発表者】

淑徳大学経営学部経営学科
2年 及川 胡桃、横山 絢菜
3年 市川 透

【発表概要】

・アンケート調査により冬季観光客の少ない点に気づき、アイスキャンドルイベントを実施しました。
・道の駅の取り組みをPRすることに重点をおき、若者の視点からSNSを活用して口コミとして発信することができた。

【道の駅果樹公園あしがくぼコメント】

・1泊2日の合宿から始まり、何度も足を運んでいただき、ありがたかった。平成28年のオリジナル商品発売に向けて引き続き連携をしていきたい。



成果発表の様子



指導教官並びに道の駅からのコメント

平成27年度 道の駅と大学との連携 成果発表交流会

⑪立教大学と道の駅「いちごの里よしみ」との連携

【発表課題】

いちごの里よしみ×立教大学 連携事業成果報告

【発表者】

立教大学観光学部観光学科3年
上野 名保子、大平 ゆり、窪田 まみ、佐澤 芽里
高山 愛、柳沢 早紀

【発表概要】

- ・地域の恵みや活力を感じる拠点として、地域コミュニケーションの核になる道の駅としての企画を提言した。
- ・短中長期の提言の中から短期の提言を実現し、地域の方との交流が図られた。

【道の駅いちごの里よしみコメント】

- ・いろいろな創作物や新メニューをいただき感謝します。



成果発表の様子



指導教官並びに道の駅からのコメント

⑫松本大学と道の駅「中条」との連携

【発表課題】

88(やまんば)プロジェクト 道(未知)の駅へようこそ！

【発表者】

松本大学総合経営学部総合経営学科3年
阿部 愛、上野 佳奈恵、酒井 祥子

【発表概要】

- ・長野市中条地区の特産品や地域の伝承「山姥伝説」を踏まえて、道の駅「中条」のイベント広場で行われる地域最大のお祭り「むしくらまつり」にて新商品の開発やイベント企画を実施しました。
- ・今後も地域の自慢の種を一緒に育てていきたいと感じています。

【道の駅中条コメント】

- ・いろいろな切り口の提案をいただき、高齢化が進んだ中山間地において、若い力から元気をいただいた。



成果発表の様子



指導教官並びに道の駅からのコメント